

# 早雲だより

2019.10.20

第147号

歴史グループ早雲

代表 井上一夫

## 第一六二回 歴史ハイキング 報告

### 琵琶湖疎水と大津城址散策

令和元年九月二十九日（日）

めまぐるしく変わる天気予報にやきもきしましたが、ハイキング日和の好天に恵まれました。

JR大津駅南口に三十三名が集合しました。集合時間の十時から本日のコースと概要説明の後、十時十五分に大津駅を出発しました。

歴史ハイキングを計画して大津城と琵琶湖疎水をつなぐりを強く感じました。

古くから琵琶湖の水運を利用して美濃や北陸地方の年貢米等を集積し京や大坂へ運んでいました。畿内を平定した秀吉が平和な時代の経営のため物資の集積のため造ったのが大津城のような気がします。城と言っても守りに弱い城でした。秀吉亡き後の関ヶ原の

戦いに巻き込まれた城主は京極高次でした。自分ならどう決断したかな。

江戸時代になっても琵琶湖の水運は重要でした。大津に集積する物資量は当時の経済の中心と言われた大坂に匹敵するものでした。

それが証拠に米相場が大津と大坂の比較で成り立っていた時期もあります。

疎水は京都・大阪への物資輸送の役割を果たすはずでした。しかし、同じ頃、鉄道の東海道線が開通していました。水運から鉄道への変換時期でした。

戦国時代から明治時代の歴史をダイナミックに感じていただく歴史ハイキングに出発です。

### 第一部 大津城址

大津は歴史的にみて交通の要衝です。琵琶湖の水運・京都から草津へ向かう東海道がとおり大津宿の札ノ辻で湖西へ向かう北国街道と分岐します。札ノ辻で東西に分かれた道が大津城の外堀に沿っています。ここから北へ浜大津港までが大津城の南北の範囲になります。

我々は東側の外堀沿いの道を浜大津に向かって歩きました。浜大津の手前で遺構の少ない大津城石垣の復元を見学しました。某生命保険会社のビルの玄関に石垣がありました。説明板が無ければ見過ごしてしまふような佇まいでした。

次に我々は本丸跡を目指して浜大津の連絡橋へ上がりました。連絡橋は展望がよく比叡山や琵琶湖が望めました。琵琶湖に浮かぶヨットなどのどかでした。四

重五階の天守からの眺めを想像しました。

大津城は一五八六年に三重の堀の有る城として築かれました。琵琶湖の水運を利用して美濃、越前方面から運ばれてくる物資を安全に保管するための城郭であり、攻防戦には不向きでした。



写真（大津城址本丸跡）

一五九五年に近江源氏の名門の京極高次が城主となりました。そして、一六〇〇年関ヶ原の合戦を迎えます。京極高次は浅井長政の三人娘の淀君の妹初を正室としており、立場が微妙な

中、徳川家康の東軍方に味方して戦いました。高次軍三千人は城に籠城し、西軍方二万五千人を迎えました。攻めあぐねた西軍は大砲を天守に打ち込むなどしました。高次は九日間の攻防戦の末、開城しました。その日は九月十五日でちょうど関ヶ原合戦の当日でした。高次の命運やいかに。紙面の都合で割愛します。

## 第一部 琵琶湖疏水



写真（疏水第一トンネル）

琵琶湖疏水とは、滋賀県の琵琶湖の水を京都に運ぶ運河である。京都府知事として着任した北垣国道が、工事主任として工部大学校（後の東京帝国大学工学部）卒業で二〇歳代の田辺朝朗、測量主任として島田道生を車の両輪として工事を進めた。

この疏水の目的は多目的であり、当初の計画では、水車を動力源として機械を運転しての工業振興、通船による物資の輸送、田畑の灌漑用水の確保、市街用水の欠乏補給、そのほか精米・防火の用水確保さらには通水による衛生の改善などがあった。ただし、この計画は、主目的が水車による動力から、電気による動力に切り替えられる。結果として、電気への計画変更が、琵琶湖疏水を成功に導く要因となる。

疏水工事は一八八五年（明治一八）六月に着工し、一八九〇年（明治二三）三月に竣工し、竣工式（疎通式）が行

われた。また、一八九一年（明治二四）、蹴上に日本初の事業用発電所が完成し、一月より送電が開始される。

疏水工事的目的の一つは大津から京都への舟運であったが、前年の一八八九年には東海道線が開通していた。つまり、鉄道の時代が来ていたのである。琵琶湖疏水が効果をあげていくのは明治二〇年代後半からの電気による効果である。

また、京都の上水道は、この第一疏水ではなく、明治末の第二疏水によるものであるが、第二疏水は第一疏水があったためスムーズにつくることができた。」

（以上『大学的京都ガイド』  
こだわりの歩き方』鴨東の北の景観 琵琶湖疏水と岡崎周辺 高久嶺之介氏からの抜粋）

三保ヶ崎は大津城の西側の外堀になります。琵琶湖

第一疏水はここから南西へ流れ、三井寺境内を第一トンネルで潜り山科へ抜け蹴上まで続いています。

三保ヶ崎から疏水沿いを第一トンネルまでたどり、三尾神社（疏水の起工奉告式と竣工奉告式が行われました）に参詣しました。

琵琶湖疏水と一旦分かれて小関越えを山科へ向かいます。その前に長等公園入口で昼食タイムにしました。小関越えは京から北国街道へ向かう旅人の近道ルートで逢坂の関を大関としたときに小関と称したことによるらしいです。

昼食後急登を三十分かけて小関越えにある峠の地蔵（喜一堂）まで登りました。峠から山科方面へ下りの途中、第一トンネル建設時の第一堅坑を見学しました。堅坑は長いトンネルを掘る際にトンネルの中間に土砂の搬出、資材の搬入出、作業員の出入りに使ったための

堅穴です。第一トンネルにはもう一つ堅坑があります。が、今回は立ち寄りませんでした。

西大津バイパスの高架の下で藤尾の里に入ります。しばらくして第一トンネルの西洞門で再び疏水と合流しました。桜並木の疏水沿いを山科安土橋から山科駅まで歩き解散しました。

厳しい暑さの中、難所の小関越えも無事に通過しハイキングを終えることができました。参加者の皆さん・スタッフの皆さんありがとうございました。

（文責 井上一夫）



写真（諸羽トンネル出口）

# 一口感想

H・M

数日前からのあやふやな天気予報で心配していたが、当日は強い陽射しもあり、紫外線に弱い身にとっては男傘が手放せなかった。

最初に訪れた大津城の物語は京極高次の関ヶ原合戦の前の西軍相手の籠城戦ぐらいの知識しかなく、まして、その存在地すら知らなかった。

東海・北陸からの物資の集積港が主な目的であったため、城塞としての機能が充分でなかったが、12日間もの籠城戦に耐え抜き、その後、数奇な運命に左右されながらもしぶとく生き延び出世してゆく京極高次の生きざまに感動。

次いで、琵琶湖疏水三保ヶ崎埠頭から三尾神社へ小関街道のメインコース。

9月末とはいえ、蒸し蒸しとした暑さに体力も半分以上消耗した気がした。

琵琶湖疏水工事は東京遷都による寂れた京都復興を図るために始められたが、工事のほとんどは日本人の技術者・技術によって成し遂げられたというが、日本人による土木技術は何千何万と全国にある過去のお城の築城・堀・運河の掘削技術を持ってすれば、それほど難しいとは思われないうが、それにしても、現代のように重機やダンプのない時代、疏水を巡りながら、壮大な難工事に挑んだ当時の施政者や若い技術者の篤い意気込みに敬意を表したいと思いました。

◇◇◇◇

T・A

一六二回歴史ハイキングでは大変楽しい一日を過ごしました。有難うございました。

コースの見学個所では丁寧な説明をして頂き識らないことが分かりました。資料を帰宅後読み直しました。そして参加者の皆さんが和気あいあいと良い雰囲気でした。幾つになっても識らないことを識ることは目からウロコでした。

毎回御世話を下さっている方々にお礼申し上げます。次回も参加させて頂きます。

何処か希望がありますかと言われても浮かびません。が……

二次会は始めて参加させて頂きました。とても楽しい会でした。

有難うございました。重ねてお礼申し上げます。今後ともヨロシクお願いします。

◇◇◇◇

M・M

井上様はじめ、お世話くださった皆様に御礼申し上げます。

私は浜大津にはよく行っていたのに、城があった事さえ知りませんでした。興味深い詳しい解説のお陰で本当に楽しませていただきました。小関越えから四ノ宮への道も、皆さんとともに無事歩けて嬉しさ一杯です。

私の脚がいつまで持つかわかりませんが、また参加させて頂きたいですね。

◇◇◇◇

K・M

歴史ハイキングに久しぶりに参加させていただきました。故山口さんが築き上げてこられた「早雲」そして歴史ハイキングが脈々と受け継がれていること心からうれしく感謝申し上げます。

いつもお世話ありがとうございます。暑かったですけど雨天でなくて良かったです。大津城、高次の話、面白かったです。琵琶湖疏水のこと、今回で良くわかりました。

◇◇◇◇

Y・H

全く知らなかった大津城址。詳しい資料を読みめまべるとその変遷にドラマを見る思いでした。琵琶湖疏水にそってのハイキング。緑に彩られさわやかでも気持ちよかったです。そして打ち上げ会でのビールのおいしかったこと。オシャベリの楽しかったこと……。お世話頂いた皆様本当に有難うございました。

いつもお世話ありがとうございます。暑かったですけど雨天でなくて良かったです。大津城、高次の話、面白かったです。琵琶湖疏水のこと、今回で良くわかりました。第一堅坑、第一トンネルの入り口も実際に見て良かったです。水道水も今以上に大切に使わなくてはと思います。行程はしんどかったけど最後まで行けて良かった。

◇◇◇◇

T・M

先日の日曜日、晴天の下での歴史ハイキング本当にお世話になりましたがどうございました。とうとう豊かに流れる琵琶湖疏水を目の当たりにし、150年前の明治の人の偉業に思いをはせススキ、黄色いコスモス、きんもくせいのおいの中小関越えの山間いい汗をかき歩きおりました。大津城址の大津港からは、ヨットの浮かぶ琵琶湖をほっこり気分であめ、そして最後に、冷たいビールでどを潤し、めでたしめでたしの一日が無事終了しました。

次回十一月二十四日も参加したいと思えます。楽しみにしています。

◇◇◇◇

R・Y

お天気も良くハイキング日和でよかったです。この頃山を歩いたことがなく

登り下りがちょっとしんどかったです。みんなと一緒に歩いて楽しかったです。また次回も参加したいです。ありがとうございました。

◇◇◇◇

Y・T

一回目の参加ですが、楽しく歩きました。疏水トンネル沿いに大津から山科まで抜ける道では、疏水の歴史など聞きながらの散策でした。明治以降京都の発展に、疏水の貢献も大きかったですね。琵琶湖に感謝です。大津城では、参考資料が役に立ちました。世話人の皆様方、ありがとうございました。

## 近況報告

井上一夫

5月の歴史ハイキング以降の山行記録です。

愛宕山登山(6月2日) 槍ヶ岳のトレーニングで登りました。JR保津峡駅から水尾経由で登りました。

槍ヶ岳登山(8月25日

〜28日)は久しぶりの三千メートル越えの登山でした。上高地から槍沢を登るポピュラーなコースですが、かなりのハードでした。

写真：槍ヶ岳登山

(3180m)



鬼ヶ城登山(9月8日)

は大江山の鬼伝説の山です。山頂には城跡が残っていました。

佐和山城址(9月16日)

は彦根市にある石田三成の居城です。いずれ歴史ハイキングでも訪れたい所です。歴史ハイキングの参考に

するため、その他の処へも出掛けています。

皆さんも近況をお知らせください。適宜掲載いたします。

写真：鬼ヶ城(544m)



写真：

佐和山城址(石田三成居城)



# お知らせ

歴史グループ早雲の

ホームページについて

ホームページを作りました。

「歴史グループ早雲」で検索、または次へ

<http://souun.daa.jp/>

## 編集後記

大津城址の遺構は少なく、城の有ったことも御存知ない方が多い。その城をどのように目の前に出現させるか。現地でのつたない説明が好評で良かったです。

感想たくさんいただき、感謝しています。(K・I)